



がん薬物曝露対策について ～治療後も注意が必要です～

抗がん薬（Hazardous Drugs:HD）は投与時だけでなく、投与後も患者の尿・便・嘔吐物・汗などに排泄されることが知られています。そのため、日常的なケア場面においても医療従事者の曝露リスクが存在します。

抗がん薬は殺細胞性障害を有する薬剤であり、低濃度曝露を繰り返す事ことで、健康影響が懸念されています。

治療後に注意する場面

排泄介助・オムツ交換、ポータブルトイレ清掃、嘔吐物処理、汚染リネン交換、発汗後の寝衣交換、CVポート抜針時の血液飛散、末梢ルート抜去時の逆血 など

曝露するとどうなる？ 過敏反応、皮膚刺激、咳嗽、頭痛、めまい、がん化、生殖機能への影響、遺伝毒性などが示されています。

「症状がでないから問題ない」ではなく、“曝露を最小限にする”という考え方が重要です。

対策をとる期間

点滴による抗がん薬の場合は投与後2日間

内服抗がん薬を毎日服用する場合は、最終内服後から7日間

推奨されるPPE

抗がん薬対応手袋、ガウン（エプロン）、マスク、アイシールドなど

「いつものケア」に曝露予防の視点を
取り入れていきましょう



文責：がん薬物療法看護CN 星山紗恵里

フットケアはなぜ必要なの？

血糖値が高い状態が長く続くと、合併症のひとつである神経障害や、動脈硬化などが起こります。動脈硬化は血流障害をおこし、様々な異常が出やすくなります。また、高血糖は抵抗力を落とし易感染状態となります。さらに、網膜症などにより視力が低下してくると、傷などに気づきにくく、足の潰瘍や壊疽など重大な足病変に進行してしまうことがあります。大切な足を守るためには、**良好な血糖値と日々のフットケア**がカギになります。

毎日の観察や靴の選び方は、フットケアの重要な項目ですので是非覚えてください。

毎日行うべきチェック

指の間・足裏・かかと・爪を見る。赤み、腫れ、水疱、タコ、ひび割れ、傷、変色、出血などがないか。見えにくい場所は鏡を使う。長く歩いた日や運動後は特に念入りにチェックを行う

靴の選び方

つま先に1センチ程度の余裕があり、足の形に合った靴を選びましょう。

革や内貼りが柔らかく、靴の内部に硬い縫い目のない靴を選びましょう。

クッション性がよく、靴底が安定している靴を選びましょう。

運動や散歩をする時は足首が固定されるよう、紐やマジックテープが付いた運動靴を履きましょう。

神経障害がある方は靴の中に異物がないか、よく確認してから履きましょう。

靴は足がもっとも大きくなる夕方に選びましょう。

みんなで患者さんの大切な足を守りましょう！！



文責：糖尿病看護CN 田尻顕